

外郎売

拙者親方と申すは、お立合の中にござり申す方が、お江戸を發つて二
十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、青物町を上りへおいでなされるれば、欄干
橋虎屋藤衛門、只今は剃髮致して、円斎と名のりまする。

元朝より大晦日まで、お手に入れます此の薬は、昔珍の国の唐人、外郎という人、わが朝
へ来り、帝へ参内の折から、この薬を深く籠め置き、用ゆる時は一粒ずつ、冠のすき間より取
り出す。よつてその名を帝より、「とうちんこう」と賜わる。即ち文字には、頂き、透く、香い、
と書いて「とうちんこう」と申す。

只今はこの薬、殊の外、世上に弘まり、方々に似看板を出し、イヤ、小田原の、灰俵の、
さん俵の、炭俵のと色々に申せども、平仮名をもつて「ういろう」と記せしは親方円斎ばか
り。もしやお立合の中に、熱海か塔ノ沢へ湯治にお出でなさるるか、又は伊勢御参宮の折か
らは、必ず間違いなされますな。お上りならば右の方、お下りなれば左側、八方が八つ棟、
表が三つ棟、玉堂造り、破風には、菊に桐の臺の御紋を御赦免あつて、系図正しき薬でこ
ぞる。

イヤ、最前より家名の自慢ばかり申しても、ござりない方には、正身の胡椒の丸呑、白川
夜船、さらば一粒食べかけて、その気味合をお目にかけましょう。先ずこの薬を、かように
一粒舌の上のせまして、腹内へ納めますると、イヤ、どうも云えぬは。胃、心、肺、肝
がすこやかになりて、薫風咽より来り、口中微涼を生ずるが如し。魚鳥、茸、麵類
の食合せ、そのほか、万病速効ある事、神の如し。

さて、この薬、第一の奇妙には、舌したのまわることが、銭独楽せごまがはだして逃げる。ひよつと舌がまわり出すと、矢も盾もたまらぬじゃ。そりやそりや、そらそりや、まわってきたわ、まわってくるわ。アワヤ咽のんど、サタラナ舌ぜつに、カ牙げ、サ歯音しおん、ハマの二つは唇くちびるの軽重けいじゆう、開合かいごうさわやかに、あかきたなはまやらわ、おこそとのほもよろを、一つへぎへぎに、へぎ干しはじかみ、盆豆、盆米、盆ごぼう、摘蓼つみたで、摘豆、摘山椒、書写山しよしゃざんの写僧正そつじよう、粉米なまがの生嚙み、粉米がの生嚙み、こん粉米こなまがの小生嚙み、繻子しゆす、緋繻子ひじゆす、繻子しゆちん、親も嘉兵衛へえ、子も嘉兵衛、親嘉兵衛子嘉兵衛、子嘉兵衛親嘉兵衛、古栗ふるきりくちの木の古切口、雨合羽あまがか、番合羽なまがか、貴様きやはんの脚絆かわぎやはんも皮脚絆、我らが脚絆も皮脚絆、しつか袴ばかまのしつぽころびを三針針中みはりはりなかにちよつと縫うて、縫うてちよつとぶんだせ、河原撫子かわらなでしこ、野石竹のぜきちく、野良如来、野良如来、三野良如来に六野良如来、一寸先ちよとひさしのお小仏こぼとけにおけつまずきやるな、細溝ほそみぞにどじよによるり、京たらのなま鱒たら奈良なまな鱒、ちよと四し、五貫目、お茶立たちよ、茶立たちよ、ちやつと立ちよ茶立あおたけちやせんちよ、青竹茶筌あおたけちやせんでお茶ちやつと立ちや、来るこるう来るわ何が来る、高野こうやの山のおこけら小僧、狸百匹、箸百善、天目百杯、棒八百本、武器、馬具、武器、馬具、三武器馬具、合わせて、武器、馬具、六武器馬具、菊、栗、栗、三菊栗、合せて、菊、栗、六菊栗、麦、ごみ、麦、ごみ、三麦ごみ、合せて、麦、ごみ、六麦ごみ、あなげしの長押ながなきなたの長薙刀たは、誰が長薙刀ぞ、向えこうの胡麻まがらは、荳まごまがらか、あれこそほんの真胡麻まごまがら殻、がらびい、がらびい、風車、おきやがれごぼし、おきやがれ小法子こぼうし、ゆんべもごぼして、又ごぼした、たあぶぼぼ、たあぶぼぼ、ちりから、ちりから、つったつぽ、たつぽたつぽ干ひだこ、落ちたら煮て食お、煮ても焼いても食われぬものは、五徳ごとく

鉄きゆう、かな熊童子くまどうじに、石熊、石持、虎熊、虎きす、中にも、東寺とうじの羅生門には、茨木童子くまどうじがうで栗五合くりごごうつかんでおむしゃる、かの頼光らいこうのひざもと去らず。鮎あな、きんかん、椎茸しいたけ、定めて後段ごだんな、そば切り、そうめん、うどんか、愚鈍ぐどんな小新発地こしんぼち。小棚こだなの、小下の、小桶に、こ味噌が、こ有るぞ、小杓子こしやくし、こ持って、こすくつて、こよこせ、

おつと合点がてんだ、心得こころえたんぼの川崎、神奈川、保土ヶ谷、戸塚は、走って行けば、やいとを摺りすむく、三里ばかりか、藤沢、平塚、大磯がしや、小磯の宿しゆくを七つ起きして、早天そうてん早々、相州小田原とうちんこう、隠れござらぬ貴賤群衆きせんぐんじゆの花のお江戸の花ういろう、

あれ、あの花を見てお心をおやわらぎやという、産子うぶこ、這子はうこに至るまで、この外郎の御評判、御存じないと申されまいつぶり、角つのだせ、棒出せ、ぼうぼうまゆに、白、杵、すりばち、ばちばちぐわらぐわらぐわらと、羽目はすを弛はして今日こんにちお出いでのいずれも様さまに、上げねばならぬ、売らねばならぬと、息せい引つぱり、東方世界の薬の元々、薬師如来も照覧あれと、

ホホウ敬うやまつつて、ういろうは、いらつしやりませぬか。